



さきやまべ

平成28年9月1日現在

世帯数	5,161 戸
人口	5,733 人
男子	6,148 人
女子	11,881 人

里山辺地区自主防災訓練に

無くてはならない「避難所運営委員会」

9月3日の訓練実施の状況



防災訓練の大きな目的とテーマは、「私たちが協働で尊い人の命を救うこと」である。

昨年度より里山辺地区の防災訓練の形態が大きく変わった。それは、従前の救護や消火等に使う技術的な訓練は単位町会に任せられたこと。また、里山辺体育館避難所運営委員会（5町会）を立ち上げ「私たちが出来る避難所運営訓練」の基礎をつくったことである。

今年度は、昨年度の反省事項や課題を検討した結果、一つ目は、最大懸案事項であった残りの里山辺地区11町会が避難所として登録してあった「山辺中学校」「山辺小学校」「真陵、松工」の3区域の避難所運営委員会を立ちあげた事だ。これは他の地域にはない素晴らしいことだと自負し



真剣に訓練を行う参加者たち

ている。二つ目は、この4区域を一つにまとめて、避難所運営委員会会議を開催し地区全体の防災訓練のあり方を真剣に話し合った事で町づくりにも大変有意義で価値ある内容となった。三つ目は、9月3日に実施した山辺中学校を想定した「避難所訓練」（場所・里山辺体育館）である。

わが町紹介

- 南小松 ●
- 南小松の夜泣き地蔵 ●

南小松町会は里山辺地区の南西に位置する、戸数20数戸の小さな町会で、昔からの家が多く、新年会やお花見などにはほとんどの家が参加する、結束の強い町会です。

また、周囲をブドウ園と水田に囲まれ、夏から秋にかけてはブドウの香りに包まれます。

南小松公民館の北側に小さな公園があり、そこに12体の

目的と狙いは「避難者同士の共助と協働の精神に基づく避難所運営」。特に実践では「的確な情報伝達」・「秩序ある行動」・「健康管理」であった。特別講演で「避難所の実際」について聴講した。また、参加者約230名に訓練内容をリアルタイムで解説し、更にはアンケートを活用し、理解度を高めることができ、次につなげることが出来た。

今回の避難所運営委員会と訓練の構築にご尽力いただいた関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

里山辺地区まちづくり協議会
会長 市原 富美敏

石像等があります。その中に、「夜泣き地蔵」と呼ばれる、高さ40センチほどの小さなお地蔵さまがあります。言伝えによると、子どものことなら何でも願いを聞いてくれるというありがたいお地蔵さまで、その名のとおり、子どもの夜泣きが止まらないときに願掛けをすると夜泣きが止むと言われています。母の話によると、私も子どもの頃に夜泣きがひどく、何度もお世話になったようです。

我が家では、お盆と暮れの墓参りの際には、今でも必ず



南小松の夜泣き地蔵

併せてお参りをして、お線香を手向けています。

南小松公民館長
小石井 亮治

月下美人

薄命しかし可憐な命

公民館の事務室の窓際にはいくつもの鉢植えが並んでいますが、その中の「月下美人」という花がこの度、見事な花を咲かせてくれました。

「月下美人」はサボテン科の花で、夜に咲き始め翌朝までの一晩で萎んでしまうという、なんとも儂い花です。

7月末頃から蕾が膨らみ始め、どんな花が咲くのか心待ちにしていた矢先の8月3日夜9時過ぎ。それは見事な大輪の白い花が凛として咲いて



一夜の奇跡、白い乙女が舞い降りる

いました。儂くも強さを感じさせる、まさに月下に佇む美人を思わせる花に惹きこまれた不思議な夜でした。

花言葉は「儂い美、儂い恋」など。命短し恋せよ乙女！

里山辺地区地域づくりセンター
赤澤 亜季



7月22日(金)に里山辺地区の「夏まつり」が開催されました。公民館長会の皆さんが口火を切って「ミニSSL」を運行。日中の暑い内からレール敷きをして頂いたおかげで、順調に走る走る。子供も大人も皆大騒ぎで楽しそうに乗っていました。終業式の関係で、子供の数が心配されましたが、昨年以上に子供達が集まってくれました。午後6時に夜店

人権に学ぶ

地区人権啓発推進委員会で毎年1回、1日視察研修を行っています。今年の上田市の無言館に行きました。昭和19年、戦争の不利により20歳以上の徴兵検査を受けた軍人では間に合わず学徒動員令が施行されました。志半ばにして戦地に赴いたのは大学生を始めとし中学生、女学校生(現高校生)と

が開店すると、どの屋台にも長蛇の列が出来、たまたま売られる店も現れる程の大盛況でした。「長のり巻き作り」「スイカ割り」へと進み、最後が「花火大会」でした。大勢の子供達が残ってくれ、にぎやかに沢山の花火が輝きとともに煙になりました。片付けを終えて感じた倦怠感、当に祭りの後の寂しさであろうけれども、それも含めて楽しい一夜となりました。
ご来場下さった皆様ありがとうございました。また実行に携わった皆様本当にご苦労さまでした。

長野県公民館報 関係者研修会 7月23日
広報誌と公民館報の違いを知るため参加しました。広報は行政が、館報は住民が編集し情報伝達するもの。館報には二つの役割があり、地域の歴史を残すことと、現状を紙面に残すことです。予告と結果報告だけでなく、今の課題とその検討、報告も大切な題材となります。充実した館報には住民の知恵と情報が不可欠です。御協力をお願いいたします。

トピックス

◆第12回里山辺地区マレットゴルフ大会
8月19日(金)、昨日の雨も嘘のように天気に恵まれて中山霊園マレットゴルフ場で盛大に行われました。大会結果は次のとおりです。

◎男子の部(敬称略)
スコア58にて4人が同点のため、プレーオフにて順位を決定しました。

1位 赤羽哲夫 美里町
2位 大野君夫 林
3位 小岩井寛 林
4位 朝倉万幸 北小松

◎女子の部(敬称略)
1位 武田通子 林
2位 小岩井秀子 林
3位 下総和子

◆第63回里山辺地区野球大会
8月28日(日)に行われました。大会の結果は次のとおりです。野球は雨のため中止となりました。

【ソフト排球】

優勝	Aブロック 荒町	Bブロック 上金井
準優勝	湯の原	南北小松

◆学校サポート事業
9月4日(日)、山辺小学校の草刈りを実施しました。里山辺・入山辺両地区の町内公民館長を中心に30名で校庭、上庭及び駐車場の草を刈りました。同月に行われる小学校の運動会が綺麗な校庭で盛大に行われることを期待しています。なお、今回は秋のPTA作業と同時に、地域・PTA・学校が連携して子供を支える素晴らしい取り組みとなりました。携わって頂いた皆様大変お疲れ様でした。

多数に及びました。当時の小学生は晴耕雨読ではないが勉強よりは食糧増産に駆り出されました。そんな状況の中、お国の為と称し戦地に赴き、命を失った学生には将来画家になる夢をもった者が多くいました。その遺作には二度と帰れない故郷、もう会えない肉親への思いがしみじみと窺われました。人権それは私達の座下にある最も大切なものと思えます。憲法の中の「人権は国民に与えられた稀有の権利である」

に謳われた「人権」は何かと考えたとき、それは最も身近な命だと思えます。命令により命を失うことは生きる権利(人権)を捨てる浅はかなことではないかと思えます。
戦後70年を過ぎ、日本はこれまでの間一人の戦死者も出ない平和な国を持続してきました。この研修で過去の紛れもない事実に触れ、空しく散った人達を偲び、生きることの尊さをしみじみと感じました。

里山辺地区文化祭作品募集!!
第42回里山辺地区文化祭が10月29日(土)、30日(日)に行われます。作品展は2日間で、里山辺公民館では、展示作品を募集していますので、お問い合わせください。
今回は、里山辺所縁の歌をまとめたCDを両日販売します。是非ご購入ください。
ステージ発表のほか、販売コーナー、福祉ふれあいフェスティバルは10月30日(日)の開催です。ぜひお越しください。
☎32-1077

里山辺地区人権啓発推進委員会 委員長 久保田 一